

一般社団法人 日本計算工学会 2017年度定時社員総会

総会議事次第

第 I 部

■議 事

- 2016年度 事業報告
- 2016年度 決算報告
- 2016年度 監査報告
- 2017年度 事業計画(案)
- 2017年度 事業予算(案)
- 諸規程制定(案)

■資 料

- (1) 総会議事次第
- (2) 第1号議案 2016年度 事業報告書
- (3) 第2号議案 2016年度 決算報告書
- (4) 第3号議案 2016年度 監査報告書
- (5) 第4号議案 2017年度 事業計画(案)
- (6) 第5号議案 2017年度 事業予算(案)
- (7) 第6号議案 諸規程制定(案)

第 II 部

- 表彰式 2016年度 学会賞・フェロー・名誉会員章 授賞授与

2017年5月19日(金) 14:00より

東京大学 伊藤国際学術研究センター

【第1号議案】

2016年度

事業報告書

自 2016年4月 1日

至 2017年3月31日

【第1号議案】

2016年度事業報告書

1. 通常総会の開催

2016年度通常総会を、2016年5月27日に、東京大学・武田ホールで開催した。

また、総会記念シンポジウム「実験の奨めーき裂進展数値シミュレーションの課題ー」と題して、東京理科大学 菊池 正紀 氏に基調講演をいただいた。

2. 理事会の開催

2016年度の理事会は、2016年5月27日、7月22日、9月28日、11月28日、2017年1月30日、3月30日、5月12日の7回開催した。

3. 規程類の整備

以下の規程・内規・申し合わせについて制定あるいは改訂し、担当理事の役割と責任を明確化した。

規程：事務局規程（制定）、研究会規程（改訂）、会計管理規程（改訂）

内規：計算工学大賞選考内規（制定）、スカラシップアワード選考内規（改訂）、論文委員会内規（制定）

申し合わせ：講師謝礼に関する申し合わせ（制定）、旅費に関する申し合わせ（改訂）、会議費に関する申し合わせ（制定）、表彰における会員資格確認に関する申し合わせ（制定）、フェローから名誉会員への移行に関する申し合わせ（制定）

また、表彰に関する選考規程類は、すべて規程から内規へと名称を変更した。なお、会費規程、会員規程については、総会で承認を得ることを目標に案を作成した。

4. 表彰

表彰委員会にて審査・選考し、今年度の授賞者を理事会にて決定した。

○ 計算工学大賞

Charbel Farhat 氏 米国スタンフォード大学

○ 功績賞

都井 裕 氏 東京大学

姫野 龍太郎 氏 理化学研究所

○ 功労賞

菊地 彪 氏 数値解析開発株式会社

○ 川井メダル

塩谷 隆二 氏 東洋大学

○ 庄子メダル

櫻井 英行 氏 清水建設株式会社

○ 技術賞

立石 勝 氏 株式会社テクノスター

「CAEユーザーの立場にたった使いやすく利用価値の高いCAEソフトウェア群の開発」

○ 論文賞

【第1号議案】

- ・「ミラー粒子境界表現を用いた MPS 法による流体シミュレーション」
松永 拓也 氏、柴田 和也 氏、室谷 浩平 氏、越塚 誠一 氏
- ・「結合力を埋め込んだ弾性損傷モデルの構築とそのき裂進展解析への応用」
新宅 勇一 氏

○ 論文奨励賞

- ・荻野 正雄 氏
「高周波電磁界シミュレーションにおける複素対称行列向け反復法の性能評価」
- ・陳 曦 氏
「非正規分布の形状不確定性を考慮した確率有限要素法による構造解析手法の開発」

○ 博士論文賞

該当無し

5. 計算工学講演会関係

第21回計算工学講演会を、2016年5月31日より6月2日まで朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）において開催した。30件のOSに対して314件の一般講演が行われた。そして、これらの講演原稿を収録したCD-ROM版計算工学講演会論文集 Vol.21 を発刊した。講演会において榎本 利章氏（ナミックス）による特別講演を行い、シンポジウムやランチョンセミナーさらに学生向け特別企画も行った。また、例年通りグラフィクスアワードおよびベストペーパーアワードの表彰も実施した。なお、詳細については別紙1を参照。

6. 講習会・講演会の開催

本学会の活動の成果発信の場として講習会・講演会を開催した。

- (1) サマースクール「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」を開催した。（東京、8月31日～9月2日）
- (2) ウィンタースクール「トポロジー最適化の基礎～積層造形によるものづくりへの応用～」を開催した。（東京、3月9日）

7. 若手の支援と活性化

- (1) 20周年記念 JSCES スカラーシップアワードの募集・審査・選考を行い、第21回計算工学講演会において表彰した。受賞者は別紙1の通り。
- (2) 学生向けセミナーとして「サマーキャンプ」を開催した。（山梨、9月18・19日）なお、詳細については別紙1を参照。

8. 学会刊行物の企画・刊行

- (1) 計算力学レクチャーコースの書籍として「固有値解析」、「非線形並列有限要素法」、「ボクセル解析」（いずれも仮題）の3冊の出版を企画した。出版は2018年見込みである。
- (2) 学会編として「ソフトコンピューティング（仮）」の出版を企画した。2018年度出版見込みである。

9. 学会誌の編集と発行

【第1号議案】

- (1) 学会誌「計算工学」第21巻2号～4号および第22巻1号を発行した。
- (2) 会誌委員会を各号発行に合わせて4回実施し、会誌企画と編集作業の進捗を確認した。

10. 論文集の発行

- (1) 日本計算工学会論文集の投稿論文に関して、インターネットを用いた編集を実施し、No.20160012 から No.20170004 までの論文を発行した。
- (2) 論文部会を組織し、論文賞および論文奨励賞の推薦、審査、審査結果にもとづいた表彰委員会への推薦をおこなった。

11. 研究会の活動

2014年度に制定された研究会規約に基づいて、研究会の活動が実施された。

企画型研究会

- (1) ものづくりのための計算工学研究会
- (2) S&V (Simulation & Visualization) 研究会

公募型研究会

- (1) High Quality Computing (HQC) 研究会
- (2) PSE (問題解決環境) 研究会
- (3) 多元災害シミュレーション研究会
- (4) 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会
- (5) ベンチマークデータ共有研究会
- (6) 計算工学教育に関する研究会
- (7) 自動車構造モデルベース開発研究会

なお、詳細については別紙2を参照。

12. 会員活動

- (1) フェロー会員の公募、選考を行った。候補者を理事会に推薦し、2名のフェロー会員が承認された。
- (2) 名誉会員の称号を新たに1名に授与した。

13. 広報活動

- (1) 学会ホームページのリニューアルを実施した(2017年3月公開)。デザインの変更、掲載内容の更新、および各種規程の掲載を行った。
- (2) ニュースレターの発信を定期的に行った。
- (3) 定期的なホームページの更新を行った。情報セキュリティの管理体制の維持につとめ、セキュリティ事故はゼロであった。

14. 国際交流活動

- (1) 英文ホームページの管理を行うとともに、その内容の見直しと充実を図った。
- (2) IACM との連携を行った。
 - ・ IACM EXPRESSIONS への投稿(5月、11月)

【第1号議案】

- ・ IACM 関連会議(WCCM など)への協力と会員への広報
- ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携
- (3) 国際会議等を企画・開催した。
 - ・ WCCM2016 (2016年7月24-29日、ソウル)を支援した。
 - ・ COMPSAFE2017 (2017年10月15-18日、中国・成都)の企画・広報を支援した。
 - ・ JSCES と GACM(ドイツ)との共催による第4回日独ワークショップ(2017年3月27-28日、仙台、参加者約50名)を開催した。

15. 他学協会との連携

- (1) 関連3学会(日本シミュレーション学会、日本応用数理学会)との交流を行った。
- (2) 「横断型基幹科学技術研究連合会」に参加し、その活動の情報共有を図った。
- (3) 安全工学シンポジウム2016(日本学術会議主催)を共催した。
- (4) 第6回計算力学シンポジウム(日本学術会議主催)を共催した。
- (5) HPCI コンソーシアムに正会員として参加・支援した。

16. 寄付・基金

- (1) 庄子基金：庄子メダルの受賞費用等に充てた。
- (2) 川井基金：川井メダルの受賞費用等に充てた。
- (3) 2015年度に募集した20周年記念 JSCES 若手育成・奨励寄付金を原資として設立された20周年記念 JSCES スカラーシップアワード基金の名称を JSCES スカラーシップアワード基金に変更した。

17. 財務

適切なガバナンスのもと、健全な財務運営を実施した。会費収入にもとづく会員向けサービス(非収益事業)の他、一部で収益事業(学会標準・CDROM 販売、講演会展示ブースや学会誌掲載広告等に関する収入)も実施しているが、必要な販売費、一般管理費を考慮すると、納税は発生していない。

以上

【第 1 号議案】

(別紙 1)

第 21 回計算工学講演会

2016 年 5 月 31 日 (火) ～6 月 2 日 (木)

朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター

【グラフィックスアワード】(6 件)

○ 最優秀賞:

作品名：2.4 億粒子を用いた砂箱における断層形成シミュレーション

講演論文題目：粒子法に対する動的負荷分散性能とその改良

著者：西浦泰介、古市幹人、阪口秀 (海洋研究開発機構)

○ 優秀賞:

作品名：弁の開閉を再現した大動脈内血流の渦構造

講演論文題目：滑らかな形状および境界層の高解像による血管内脈動流の周期性に関する研究

著者：内河寛明、佐々木崇史、寺原拓哉、滝沢 研二 (早稲田大学)、テズドゥヤー タイフン (Rice University)

○ 特別賞 (MicroAVS 賞)

作品名：舞い落ちる多数のイチョウの葉の大規模流体構造連成解析

講演論文題目：舞い落ちる多数のイチョウの葉のシミュレーション

著者：渡辺勢也、青木尊之、長谷川雄太 (東京工業大学)

○ 特別賞 (MSC Apex 賞)

作品名：舞い落ちる多数のイチョウの葉の大規模流体構造連成解析

講演論文題目：舞い落ちる多数のイチョウの葉のシミュレーション

著者：渡辺勢也、青木尊之、長谷川雄太 (東京工業大学)

○ 特別賞 (Meshman 賞) :

作品名：偏心圧縮を受ける鉄筋コンクリート柱部材の変形・破壊局所化シミュレーション

講演論文題目：有限回転を考慮した 3 次元 RBSM によるコンクリート構造物の倒壊シミュレーション

著者：山本佳士、伊佐治優、中村光、三浦泰人 (名古屋大学)

○ 特別賞 (ビジュアルコンピューティング賞) :

作品名：Phase-field 法と格子ボルツマン法の大規模 GPU シミュレーションによるデンドライト組織の透過率評価

講演論文題目：Phase-field 法と格子ボルツマン法による柱状デンドライトの透過率評価法の構築

著者：坂根慎治、高木知弘 (京都工芸繊維大学)、大野宗一 (北海道大学)、澁田靖 (東京大学)、下川辺隆史、青木尊之 (東京工業大学)

【第 1 号議案】

【ベストペーパーアワード】(4 件)

題目：堆積層のエネルギー吸収性能に着目した落石の運動挙動に関する個別要素法解析

著者：内藤直人、前田健一（名古屋工業大学）、牛渡裕二、鈴木健太郎、川瀬良司（構研エンジニアリグ）

題目：津波マルチスケール解析のための Boussinesq-type 方程式と Navier-Stokes 方程式を用いた片連成モデル

著者：三目直登（東京大学）、Aaron S. Donahue、Joannes J. Westerink（University of Notre Dame）、吉村忍（東京大学）

題目：個別要素法に基づく空間分布を考慮した落石の確率論的リスク評価

著者：菅野蓮華、森口周二、高瀬慎介、寺田賢二郎（東北大学）

題目：音響構造連成系における 3 次元波動変換メタサーフェスの最適設計

著者：野口悠暉、山田崇恭、泉井一浩、西脇眞二（京都大学）

20 周年記念 JSCES スカラーシップアワード (3 名)

倉石 孝 （早稲田大学）

相馬 悠人 （茨城大学）

久保 凱 （筑波大学）

JSCES 学生サマーキャンプ 2016

2016 年 9 月 18 日・19 日

クラブセントビレッヂ（山梨県南都留郡富士河口湖町船津 1636-1）

【JSCES 夏季学生講演会 2016 優秀講演賞】(2 件)

小塚 祐輔 （茨城大学）

「画像計測と数値解析による RC はりの破壊進行プロセスの再現に関する基礎的研究」

原崎 健輔 （九州大学）

「SPH-DEM カップリング法による流体-土粒子混相流解析手法の開発」

【第1号議案】

(別紙2)

学会理事会の主導による「企画型研究会」と広く会員から設置申請を募り2014年度に制定された研究会規約に則り運営される「公募型研究会」とが設置されている。

「企画型研究会」は、「S&V (Simulation & Visualization) 研究会」と「ものづくりのための計算工学研究会」の2つ、「公募型研究会」として、「High Quality Computing (HQC) 研究会」、「PSE (問題解決環境) 研究会」、「多元災害シミュレーション研究会」、「不確かさのモデリング・シミュレーション研究会」、「ベンチマークデータ共有研究会」、「計算工学教育に関する研究会」、「自動車構造モデルベース開発研究会」の7つの研究会が活動を行ってきた。公募型研究会は規約に基づき設置期間は1期2年間とされ2015年度に設置された研究会は完了するが、すべての研究会から継続申請され、活動を継続することとなった。

企画型研究会

(1) ものづくりのための計算工学研究会

2015年7月に実行体制として産学官からなる企画・運営メンバーを決定した。産学官の知恵を結集し、計算工学により、日本のものづくり(設計・製造)の強みを更に強くする事を目的とし、2015年度は研究会を3回実施した。2016年度は第4回の研究会を2017年1月31日に開催した。第4次産業革命を踏まえたものづくりの方向性に関する講演、また計算工学の現状とこれからのに関する話題提供があった。

(2) S&V (Simulation & Visualization) 研究会

計算工学の技術者、研究者、学生を対象として、新しいシミュレーション技術、ビジュアライゼーション技術、およびその周辺技術の最新の研究成果や技術について議論を行うことで、会員相互の技術力や知識の向上について検討した。

公募型研究会

(1) High Quality Computing (HQC) 研究会

2015年度には会合を3回実施した。2016年度は第4回会合を6月28日に開催した。オープンCAE学会V&V委員会の活動、ASME NQA-1に基づいた解析ソフト向け開発ガイドライン作成の試み、ASME V&V Symposium 2016参加報告があった。第5回会合を10月27日に開催した。講習会の実施報告、原子力学会標準委員会のモデルV&Vのガイドラインの解説、NASAのリスクに関するガイドラインの紹介があった。第6回会合を2017年2月22日に開催した。ASME V&V10.1-2012の概説、ISO9001-2015に対応したHQC001の改訂についての議論を行った。また、V&Vの講習会を2016年7月5日に芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて研究会委員向けに試行的に実施した。参加者の意見を踏まえて一般向けの講習会を2017年5月11日に実施する予定である。

(2) PSE (問題解決環境) 研究会

第22回計算工学会講演会においてオーガナイズドセッション「PSE/計算科学・教育」を企画した。2016年第1回PSE研究会を2016年6月24日に開催した。韓国ソウルで開催のWCCM XII (2016年7月25日・26日)で“PSE in Scientific Computing”ミニシンポジウムを開催した。2件の招待講演を含み合計7件の発表があった。第19回PSE(問題解決環境)ワークショップ2016を2016年9月1日-2日に東京都市大学、横浜キャンパスにて開催した。市民デジタルアーカイブに関する興味深い基調講演を含め、合計11件の発表があった。2016年第2回PSE研

【第 1 号議案】

究会を 2016 年 11 月 11 日に開催した。4 件の研究発表があった。2017 年第 1 回 PSE 研究会を 2017 年 2 月 10 日に開催した。4 件の研究発表があった。以下のような活動に加え、ホームページとメーリングリストに加えて、“Computer Assisted Parallel program generation”, to appear on 2017, July, Encyclopedia of Information Science and Technology, 4th Edition, IGI Global, Hershey, PA, USA. (arxiv.org/pdf/1503.04501)による広報活動を行っている。

(3) 多元災害シミュレーション研究会

2016 年度は、第 4 回研究会を 8 月 8 日鹿島建設技術研究所にて開催し、研究所の実験設備の見学会を行ったのち、BIM を用いた実務事例および大規模気流解析に関する現状の数値解析技術、HPC・情報科学と地震学・地震工学の融合などについて議論した。第 5 回研究会を 2017 年 1 月 6 日に筑波大学にて開催し、筑波大学 HAL 研究棟（ロボットスーツ HAL 専用研究棟）および EMP スタジオ（エンパワーメント学位プログラムの大型映写装置）の見学会を行ったのち、構造物の破壊解析についての紹介、現状の破壊解析技術についての議論を行った。また地震動解析ソフトの紹介や現状の産業界における災害シミュレーションの実用例についての紹介や今後の産学が協力してどのように災害シミュレーションを行っていくべきかについて議論を行った。また、第 21 回計算工学会において、関連分野と共催で多元災害シミュレーションに関するオーガナイズドセッションを企画した。第 22 回においてもオーガナイズドセッションを企画し本研究会の成果等を発表して情報交換を行う予定である。

(4) 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会

2016 年度は計 4 回（4 月 21 日、8 月 29 日、12 月 6 日、2017 年 3 月 3 日）に会合を開催した。繊維強化プラスチック（FRP）については、昨年度のシリーズ勉強会をふまえ、今年度は確率均質化法や界面特性の専門的な発表に加えて、自動車産業を主とした岐阜大学における産学連携事例の紹介を学ぶとともに関連実験設備の見学会も行った。また、昨年度に続く事例発表としては生体シミュレーションにおける不確かさのモデリング法について議論した。さらに、設計への展開や、新しい話題として画像認識と人工知能の最新技術の勉強会も行った。作業 WG として、焼入れを対象とした金属熱処理シミュレーションにおける不確かさを含むパラメータの抽出を進めた。

対外的には、第 21 回計算工学講演会において OS を企画し、12 件の講演発表があった。また、2016 年 7 月に韓国ソウルで開催された WCCM において、Probabilistic/stochastic analysis of advanced materials and biological tissues と題したミニシンポジウムをフランス パリ東大学とエコールサントラルナントの先生方と共同で企画し、16 件の発表があった。2017 年度の第 22 回計算工学講演会においても OS を企画する。また幹事団が著者となって本会誌 2017 年 1 月号に特集号を企画した。

(5) ベンチマークデータ共有研究会

2016 年度は、以下の活動を行った。(1) 昨年度に引き続き、**FrontISTR** 研究会と協同して、データ提供の広報活動を行った、(2) 本研究会のリポジトリの貢献度を評価した、(3) 第 21 回計算工学講演会で本研究会の活動と関連する講演を三件発表し、第 22 回計算工学講演会においてオープンソース・ソフトウェア（OSS）に関するオーガナイズドセッションを企画した。

(6) 計算工学教育に関する研究会

2016 年 7 月 12 日に第 1 回研究会を開催した。基本方針の確認と意見交換予備 2016 年度の活動計画について議論を行った。2016 年 9 月 26 日に第 2 回研究会を行った。メンバーの持ち寄

【第1号議案】

った教材などについて意見交換を行った。2016年12月15日に第3回研究会を行った。講習会「実務者のための計算力学・数値解析法入門（仮題）」に関する議論をおこなった。

(7) 自動車構造モデルベース開発研究会

2016年12月に発足し活動を開始した。これに先立つ第21回計算工学講演会でオーガナイズドセッションを企画している。自動車開発・計算工学・数学などに関わる研究者・技術者・学生を対称として、自動車構造モデルベース開発に関する最新の研究成果や周辺技術について議論するための研究発表会を開催し、問題発見や問題解決のための意見・情報交換や技術交流を行う。2016年12月9日に第1回研究会として公開型研究会「自動車構造モデルベース開発研究会」を開催した。2017年3月10日に第2回研究会を開催した。第22回計算工学講演会でも引き続きオーガナイズドセッションを企画している。

【第2号議案】

2016年度

決算報告書

自 2016年4月 1日

至 2017年3月31日

税務監査報告書

貸借対照表

損益計算書

財産目録

【参考資料】

会員数・決算経緯グラフ

【第2号議案】

一般社団法人 日本計算工学会
代表理事 寺田 賢二郎様

2016年度 税務監査報告書

2016年度の会計につき以下の通りご報告いたします。

年 度：第8期、自2016年(平成28年)4月1日 至2017年(平成29年)3月31日

実施日：2017年(平成29年)4月20日(木)

方 法：下期決算収支明細報告書、試算表、二期比較貸借対照表及び損益計算書、部門別総括表の資料を基に前年対比の推移も含め検証を行いました。

意 見：

1. 前年対比の特徴

前期は20周年記念事業であるIWACOM-Ⅲがあったため、売上高は1,000万円減少していますが、経常的な収入である会費収入及び講演会等収入はほぼ前年並みです。

販売費及び一般管理費のうち、IWACOM-Ⅲに係る支出がない、会誌発行費が228万円減少している、ホームページリニューアル費用115万円を支出、などが当期の特徴です。

当期純利益は185万円で、結果的には会誌発行費の経費節減分が利益となったと見てとれます。

2. 仮受金、仮払金について

仮受金、仮払金のうちには未精算のもの(GJ-4、第4回計算力学に関する日独ワークショップ)が含まれています。

3. その他

領収書や請求書などの原始資料が月別かつ日毎に整理されており、日々の金銭による収支は複式簿記により適切に処理されています。

2017年(平成29年)4月28日(金)
税理士法人 芝田会計事務所
税理士 飯塚 哲行
税理士補助 佐竹 美穂
東京都世田谷区駒沢1丁目17番17号
真成ビル8F
TEL03-3412-9515



2016年度 貸借対照表

一般社団法人 日本計算工学会

2017年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
【流動資産】	43,625,378	39,957,786	3,667,592
現金預金	43,408,946	39,750,486	3,658,460
前渡金	-	-	-
立替金	-	-	-
未収入金	16,000	207,300	-191,300
仮払金	200,432	-	200,432
資産の部計	43,625,378	39,957,786	3,667,592
II 負債の部			
【流動負債】	7,809,172	5,991,964	1,817,208
未払金	-	-	-
前受金	4,254,000	4,310,000	-56,000
仮受金	3,457,912	1,589,584	1,868,328
預り金	27,260	22,380	4,880
従業員預り金・未払法人税	70,000	70,000	-
負債の部計	7,809,172	5,991,964	1,817,208
III 純資産の部			
【繰越金】	35,816,206	33,965,822	1,850,384
繰越剰余金	35,816,206	33,965,822	1,850,384
(うち当期純利益)	1,850,384	466,905	1,383,479
純資産の部計	35,816,206	33,965,822	1,850,384
負債及び純資産の部計	43,625,378	39,957,786	3,667,592

2016年度 損益計算書

一般社団法人 日本計算工学会

自 2016年4月 1日
至 2017年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
【売 上 高】	27,217,983	37,791,600	-10,573,617
会費収入	13,298,000	13,513,000	-215,000
研究分科会会費	-	-	-
受託研究費	-	-	-
論文掲載料	600,000	630,000	-30,000
会誌広告料	1,663,200	1,647,000	16,200
講演会開催費	7,322,837	7,800,540	-477,703
寄付金(川井基金)	-	-	-
寄付金(庄子基金)	-	-	-
寄付金(フェロー基金)	-	-	-
寄付金(JSCESスカラシップ基金)	-	420,000	-420,000
助成金(IWACOM-Ⅲ)	-	2,490,000	-2,490,000
IWACOM-Ⅲ開催費	-	7,205,000	-7,205,000
講習会費	3,527,446	3,279,000	248,446
研究会費	747,000	764,000	-17,000
その他売上高	59,500	43,060	16,440
売上総利益	27,217,983	37,791,600	-10,573,617
【販売費及び一般管理費】	25,321,234	37,826,898	-12,505,664
研究分科会活動費	-	-	-
受託研究費	-	-	-
講演会開催費	5,735,767	6,372,784	-637,017
講習会費	1,589,349	1,812,015	-222,666
研究会費	75,456	192,020	-116,564
会誌発行費	3,756,650	6,040,302	-2,283,652
論文発行費	121,734	138,840	-17,106
IACM関係費	1,038,394	1,093,840	-55,446
ホームページ管理費	1,598,400	743,040	855,360
学協会関係費	290,170	289,775	395
会議費	64,750	4,750	60,000
会員システム管理費	388,800	388,800	-
総会関係費	326,252	255,370	70,882
特別講演費	-	351,112	-351,112
国際会議運営費	-	-	-
学会表彰費	214,253	208,872	5,381
20周年記念経費	-	1,589,741	-1,589,741
IWACOM-Ⅲ関係費	-	9,220,434	-9,220,434
若手育成費(JSCESスカラシップアパート)	200,000	-	200,000
通信費	330,902	376,716	-45,814
印刷費	513,714	385,618	128,096
人件費	5,100,768	4,713,705	387,063
法定福利費	692,232	693,999	-1,767
通勤交通費	328,050	323,359	4,691
什器・備品費	239,860	34,096	205,764
光熱費	162,204	176,410	-14,206
消耗品費	181,035	148,710	32,325
事務所賃料	1,684,800	1,555,200	129,600
保険料(火災保険)	17,000	-	17,000
選挙費	970	204,618	-203,648
未納会費処理損	-	-	-
租税公課	200	1,000	-800
雑費	139,476	133,772	5,704
雑費(事務所移転関係費)	-	-	-
学会運営費	530,048	378,000	152,048
営業利益	1,896,749	-35,298	1,932,047
【営業外収益】	23,726	573,145	-549,419
受取利息	502	4,705	-4,203
雑収入	23,224	568,440	-545,216
経常利益	1,920,475	537,847	1,382,628
税引前当期純利益	1,920,475	537,847	1,382,628
法人税・住民税・事業税	70,091	70,942	-851
当期純利益	1,850,384	466,905	1,383,479

2016年度 財産目録

一般社団法人 日本計算工学会

2017年3月31日現在

I. 資産

(単位:円)

費目	細目	金額
現金	事務局	8,009
	委託研究	0
預金	みずほ銀行根津支店普通預金No.1109931	2,239,205
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1109958	179,413
	三菱東京UFJ銀行本郷支店普通預金No.0052024	2,636,866
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1115419	672,561
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1117004	15,155,249
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1172382	1,667,357
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1174520	570,094
	ゆうちょ銀行振替口座No.00170-1-662808	18,273,016
	ゆうちょ銀行通常郵便貯金No.10120-76374261	2,007,176
		合計

費目	細目		金額	
未収入金	個人会員	正会員	2名	16,000
		合計		16,000

※2016年度分4月中に全て納付済

費目	細目		金額	
仮払金	GJ-4(第4回計算力学に関する日独ワークショップ)			200,432
		合計		200,432

II. 負債

費目	細目		金額	
前受金 (2017年度年会費)	特別会員	B級	2社	200,000
		C級	16社	800,000
	個人会員	正会員フェロー	7名	84,000
		正会員	376名	2,988,000
		シニア会員	31名	124,000
		学生会員	29名	58,000
	合計		4,254,000	

※内5名:学→正 移行者含む(4,000)

費目	細目		金額	
仮受金	COMPSAFE2014余剰金			1,589,584
		GJ-4(第4回計算力学に関する日独ワークショップ)		1,868,328
	合計		3,457,912	

費目	細目		金額	
預り金	給料天引き源泉所得税1~3月分			27,260
		合計		27,260

費目	細目		金額	
未払法人税等	2016年度分法人住民税			70,000
		合計		70,000

2016年度 会員推移

一般社団法人 日本計算工学会

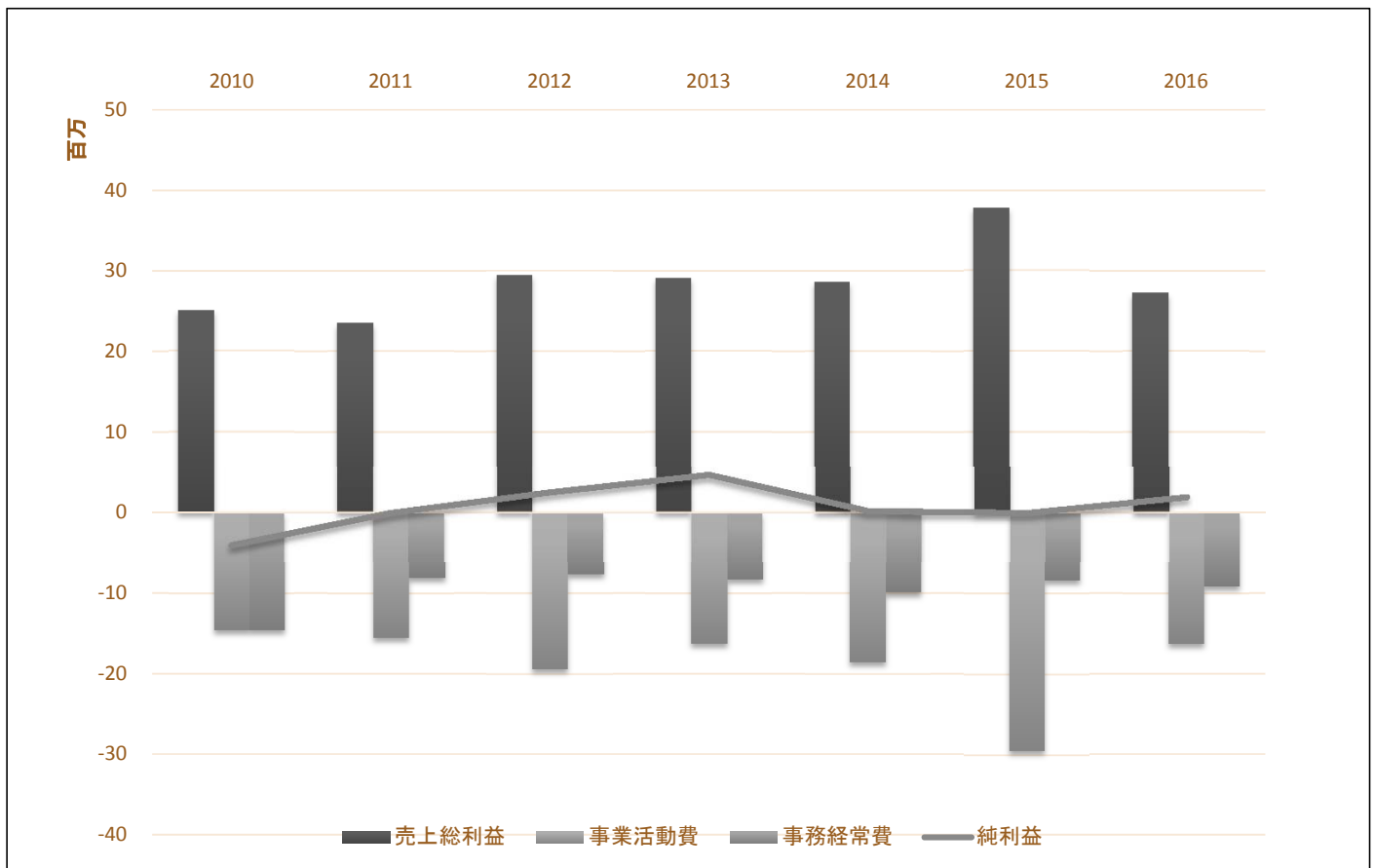
2017年3月31日現在

	特別会員			正会員 (フェロー含む)	シニア会員	学生会員	研究室会員
	A級	B級	C級				
2010年度	10	11	40	832	12	63	53 (9件)
2011年度	10	10	49	842	14	50	64 (11件)
2012年度	10	9	58	853	18	49	68 (11件)
2013年度	11	9	61	861	31	48	77 (13件)
2014年度	11	9	60	875	34	49	77 (14件)
2015年度	11	9	60	871	43	46	85 (13件)
2016年度	10	9	63	853	41	57	84 (16件)

2016年度 決算経緯グラフ

一般社団法人 日本計算工学会

2017年3月31日現在



【第3号議案】

2016年度

監 査 報 告 書

自 2016年4月 1日

至 2017年3月31日

監 査 報 告

私達監事は、2016年4月1日から2017年3月31日までの第7期事業年度の
貸借対照表、損益計算書、事業報告および附属明細書を監査しました結果、
適法かつ正確であることを認めます。

2017年 5月12日

監 事

越塚 誠

佐々木 直哉



報 告 書

前記のとおりご報告申し上げます。

2017年 5月19日

一般社団法人 日本計算工学会

会 長

寺田 賢二郎



【第4号議案】

2017年度

事業計画（案）

自 2017年4月 1日

至 2018年3月31日

活動方針

日本計算工学会は、計算工学・計算力学に関する学術研究の発展・進展を希求する我が国唯一の団体として国内外に認知されており、2年前（2015年度）には学会設立20周年を迎えた。今期は、前期に引き続き、これまでの活動の実績をもとに計算工学のさらなる発展と産官学の連携強化を図ることはもとより、学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化を促進するとともに、それらの相乗効果を生み出す新たな体制作りを検討し、可能なものから形にしていく。また、我が国における計算工学分野の将来のさらなる発展のために長期的な視点で人材育成活動や国際交流活動の拡充を図るための体制を強化していく。そこで今期の活動方針は

『計算工学の学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化を促進し、それらの相乗効果を生み出すため、及び人材育成活動や国際交流活動を拡充するための新たな体制について、実現可能なものから形にしていく。』2017年度は、この方針のもとに以下の活動を推進する。

(1) 計算工学の学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化の促進

定例の計算工学講演会の開催、および会誌・論文集の発行はもとより、2014年度に新たに発足し、軌道に乗っている研究会等の活動を通して、計算工学の学術的深化を図り、その成果が国際的にも認知されるよう務める。また、研究会等を通して計算工学の産業利用を促進するとともに、新しい技術に関する情報交換を積極的に行う。そして、他学協会との連携や協働によって社会的にも存在感のある学会となるように務める。

(2) 相乗効果を生み出す体制作り

計算工学における学術的シーズと産業ニーズのマッチングの重要性を認識し、それらの相乗効果を生むための新たな体制や事業について検討する。

(3) 人材育成活動の拡充

学生や企業における若手研究者および技術者が、計算工学分野に魅力を感じてもらえるような人材育成事業を積極的に推進する。具体的には、計算工学講演会、研究会、サマーキャンプ、講習会などの事業への参加を促すとともに、表彰事業を通じて計算工学の学術研究および技術開発を奨励する。

(4) 国際交流活動の拡充

WCCMに限らず、IACMが主催する様々な国際会議・セミナーの広報活動を強化し、会員の積極的な参加を促す。また、英文ホームページの内容を充実するなどして、本学会の活動を広く海外に発信することに努める。

(5) 健全な財政運営

消費税の増税や物価の上昇など経済的環境は厳しさを増していることを踏まえ、健全な財政運営となるよう節約を心がける。特に、会員・広報事業の活性化により、日本計算工学会の会員数の更なる増員を目指す。

1. 定時社員総会の開催

2017年度定時社員総会を、2017年5月19日に、東京大学伊藤国際学術研究センターにて開催する。

2. 理事会の開催

2017年度の理事会は、計6回の開催を予定している。

【第4号議案】

規程類の整備を完了させ、担当理事の役割と責任を明確化する。

3. 代表会員および理事・役員選挙

代表会員選出および理事・役員選挙を実施する。

4. 規程類の整備

昨年度から継続して、未制定の規程類の制定、および不備のある規程類の改訂を行う。

5. 表彰

学会賞などの表彰制度の運用については、表彰委員会にて審査し、2017年度の該当者選考を行う。

6. 計算工学講演会関係

第22回計算工学講演会を、2017年5月31日より6月2日までソニックシティー（埼玉県さいたま市）において開催する。30件のOSに対して387件の一般講演が予定されている。これらの講演原稿を収録したCD-ROM版計算工学講演会論文集 Vol.22 を発刊予定である。講演会において Charbel Farhat 教授（米国スタンフォード大学）による特別講演を行い、シンポジウムやランチョンセミナーさらに学生向け特別企画を行う。また例年通りグラフィクスアワードおよびベストペーパーアワードの表彰も予定している。

7. 講習会・講演会の開催

本学会の活動の成果発信の場として講習会・講演会を定期的に開催する。

- (1) 出版活動成果をより広く発信する場として、計算力学レクチャーコースをテキストとした「講習会」を計画する。
- (2) HQC 講習会「シミュレーションの品質保証講習会～工学シミュレーションの標準手順の実装と記録作成の課題～」を開催する。
- (3) サマースクール「流れの有限要素法」を開催する。
- (4) オータムスクール「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」を開催する。
- (5) ウィンタースクール「トポロジ-最適化」を開催する。
- (6) 計算工学の学術的深化と産業利用の高度化に関する様々なセミナーの開催を検討する。

8. 若手の支援と活性化

- (1) 学生向けセミナーとして「サマーキャンプ」を開催する。
- (2) JSCES スカラーシップアワードの募集・審査を行う。

9. 学会誌の編集と発行

- (1) 学会誌「計算工学」第22巻2号～4号および第23巻1号を発行する。
- (2) 会誌編集会議を各号発行に合わせて実施し、会誌企画と編集作業の進捗を確認する。
- (3) 会誌委員会の内規を作成し、さらに内部の役割分担、作業手順に関する検討を継続して実施する。

10. 論文集の発行

- (1) インターネットを通じた論文集の編集、発行作業を引き続き行う。

【第4号議案】

- (2) 論文部会を開催して、論文賞および論文奨励賞の推薦、審査、審査結果にもとづき、表彰委員会への推薦をおこなう。

11. 研究会および研究分科会の活動

- (1) 2014年度に策定した研究会規約に基づき研究会・研究分科会の募集を継続する。
- (2) 7つの「公募型研究会」を継続する。
- (3) 「企画型研究会」については、実施方法や体制の見直しについて検討する。

12. 学会刊行物の企画、刊行

- (1) 既判の計算力学レクチャーコースの普及活動を行う。
- (2) 新しく刊行予定の計算力学レクチャーコース「固有値解析」、「非線形並列有限要素法」、「ボクセル解析」（いずれも仮題）、および学会編「ソフトコンピューティング」の出版活動を進める。
- (3) 出版元（丸善出版）と協力して出版事業の活性化を計る。

13. 会員活動

- (1) 会員増強と会員サービスのさらなる向上を目指す。
- (2) フェロー会員の公募、選考を行う。
- (3) 名誉会員の推薦を行う。
- (4) 民間企業に所属する正会員および特別会員の増強とサービスについて検討する。

14. 広報活動

- (1) リニューアルされたホームページの修正点を洗い出し、早期に修正を完了させる。
- (2) リニューアルされたホームページの更新体制を確立し、常に新しい情報を会員に届けるよう努める。
- (3) リニューアルされたホームページの英語版を早期に開設する。
- (4) ニュースレターの発信を行う。
- (5) 広報委員会の活動を活発化し、会員へのサービス向上ならびに広く学会活動の周知に務める。
- (6) 学会外の協力機関と連携し相互の利益を高めるための広報活動を行う。

15. 国際交流活動

- (1) リニューアルされたホームページの英文版を開設し、その管理を行う。
- (2) 英文ホームページを内容の充実を図り、本学会の活動を広く海外へ発信する。
- (3) IACM との連携を維持する。
 - ・ IACM EXPRESSIONS への投稿（5月、11月）
 - ・ IACM 関連会議(WCCM など)への協力と会員への広報
 - ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携
- (3) 国際会議等を企画・開催・支援する。
 - ・ 計算工学講演会に特別講演者（Charbel Farhat 教授(Stanford University)）を招聘する。
 - ・ COMPSAFE2017（2017年10月15-18日、中国・成都）の企画・広報を支援する。
 - ・ WCCM XV & APCOM VIII の誘致・準備に協力するとともに、財政的な支援について検討する。

【第4号議案】

16. 他学協会との連携

- (1) 引き続き関連3学会（日本シミュレーション学会、日本応用数理学会）との交流を行う。
- (2) 「横断型基幹科学技術研究連合会」に参加、活動する。
- (3) 日本学術会議 安全工学シンポジウムの運営に参加する。
- (4) 日本学術会議 理論応用力学講演会の運営に参加する。
- (5) 日本学術会議 計算力学シンポジウムの運営に参加する。

17. 寄付・基金

- (1) 庄子基金：庄子メダルの受賞者用等に充てる。
- (2) 川井基金：川井メダルの受賞者用等に充てる。
- (3) JSCES スカラーシップアワード基金およびフェロー基金：若手育成のためのスカラーシップアワードの受賞者用等に充てる。

18. 技術者倫理

- (1) 技術者倫理を重視し、倫理綱領に沿った学会活動を行う。
- (2) 倫理委員会規程を策定し、倫理綱領の周知・啓発・運用を推進する。

19. 健全な運営

適切なガバナンスのもと、会の収支・損益、資産面など健全な財務運営の継続に努める。収益事業と非収益事業（会費収入に対する会員向けサービスなど）を明確化し、収益事業に対しては税務申告を行う。

以上

【第5号議案】

2017年度

事業予算(案)

自 2017年4月 1日

至 2018年3月31日

2017年度 事業予算(案)

一般社団法人 日本計算工学会

自:2017年4月1日

至:2018年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項目	2017年度予算案	備考
会費	12,800,000	2017年度年会費
研究会受託研究費	0	
論文掲載料	900,000	インターネット論文掲載:30件(特集号含む)
会誌広告料	1,800,000	会誌の広告掲載料
講演会参加費	7,000,000	第22回講演会開催費等
講習会費	3,500,000	サマーキャンプ、サマースクール、オータムスクール、ウインタースクール、レクチャーコース等
研究会費	700,000	HQC(講習会・学会標準)、PSE、多元災害、不確かさ、ベンチマーク、S&V、ものづくり、計算工学教育
その他	100,000	会誌別購入など
雑収入	20,000	学術著作権協会配当
計	26,820,000	
国際会議積立金取崩	0	
川井基金取崩	20,000	川井メダル作成費
庄子基金取崩	50,000	庄子メダル作成費、サマーキャンプ補助金
フェロー基金取崩	0	
JSCESスカラーシップアワード基金取崩	200,000	JSCESスカラーシップアワード(2017年)副賞
収入計	27,090,000	

【支出の部】

項目	2017年度予算案	備考
事業活動費	17,270,000	
研究会活動費	0	
講演会開催費	6,200,000	第22回講演会開催費
講習会費	2,500,000	サマーキャンプ、サマースクール、オータムスクール、ウインタースクール、レクチャーコース等
研究会費	250,000	HQC(講習会・学会標準通信費)、PSE、多元災害、不確かさ、ベンチマーク、S&V、ものづくり、計算工学教育
会誌発行費	3,800,000	会誌印刷費(広告掲載費含む)、発送費、掲載謝礼金(図書カード)、会議費
論文発行費	120,000	査読謝礼金(図書カード)9万、J-stage使用料3万
IACM関係費	1,100,000	IACM会費、送金手数料
ホームページ管理費	700,000	WEB保守費、追加ページ等
学協会関係費	120,000	横断型基幹科学技術年會費、日本工学会年會費、安全工学シンポジウム共催費、理論応用力学シンポジウム共催費
会議費	70,000	会合費
会員システム管理費	390,000	会員システム管理費
総会関係費	350,000	案内状、会場費、懇親会費、講師謝礼等
特別講演費	400,000	計算工学大賞受賞者招聘費
国際会議運営費	0	
学会賞表彰費	220,000	総会時表彰(川井メダルと庄子メダルを含む)
通信費	400,000	電話代、フレッツ光代、宅配便代、レターパック代、切手代、年会費請求書発送費
印刷費	450,000	コピー機リース、コピーカウント代
若手育成費	200,000	JSCESスカラーシップアワード(2017年)副賞
事務経常費	8,920,000	
人件費	5,200,000	事務局
法定福利費	750,000	事務局(厚生年金・健康保険・労働保険料・雇用保険)
通勤交通費	340,000	事務局
什器・備品費	200,000	会計ソフト保守費等
光熱費	200,000	電気、水道、ガス
消耗品費	200,000	事務局消耗品
事務所賃料	1,560,000	事務局賃料
選挙費	250,000	2018・2019年度代表委員・役員理事選出選挙
租税公課	70,000	法人住民税
保険料	0	
雑費	150,000	三菱東京UFJ・みずほWEB利用料、WEB・ATM振込手数料、貸金庫利用料等
学会運営費	400,000	会計事務所
計	26,590,000	
国際会議積立金	500,000	WCCM準備金として
川井基金積立金	0	
庄子基金積立金	0	
フェロー基金積立金	0	
JSCESスカラーシップアワード基金積立金	0	
支出計	27,090,000	
収支増減(純利益)	0	

◆積立金状況

国際会議積立金

【収入の部】

項目	2017年度予算案	
積立金	500,000	WCCM準備金として
前年度繰越金	1,739,205	
合計	2,239,205	

【支出の部】

項目	2017年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	2,239,205	
合計	2,239,205	

◆基金状況

川井基金

【収入の部】

項目	2017年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	483,692	
合計	483,692	

【支出の部】

項目	2017年度予算案	
取り崩し金	20,000	川井メダル作成費
今年度繰越金	463,692	
合計	483,692	

庄子基金

【収入の部】

項目	2017年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	672,561	
合計	672,561	

【支出の部】

項目	2017年度予算案	
取り崩し金	50,000	庄子メダル作成費、サマーキャンプ補助金
今年度繰越金	622,561	
合計	672,561	

フェロー基金

【収入の部】

項目	2017年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	60,000	
合計	60,000	

【支出の部】

項目	2017年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	60,000	
合計	60,000	

JSCESスカラーシップアワード基金積立金

【収入の部】

項目	2017年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	570,094	
合計	570,094	

【支出の部】

項目	2017年度予算案	
取り崩し金	200,000	JSCESスカラーシップアワード(2017年)副賞
今年度繰越金	370,094	
合計	570,094	

【第 6 号議案】

諸規程制定（案）

會員規程（案）

會費規程（案）

【参考資料】

會員會費細則（案）

会員規程(案)

2017年5月19日制定

第1条 (目的)

本規程は、一般社団法人日本計算工学会の会員についての必要な事項を、定款第7条2項に基づき定めるものである。

第2条 (会員資格)

本会に正会員、特別会員、シニア会員、学生会員、および研究室会員として入会する者（以下、本会に入会する者）は、定款第3条に掲げる目的並びに別に定める倫理綱領に賛同し、別に定めるプライバシーポリシーに同意する者とする。

第3条 (入会)

本会に入会する者は、所定の入会申込書に必要事項を記入し、次の手続きを経て申込みをしなければならない。

- (1) 学生会員は、在学証明を必要とする。
- (2) 研究室会員は、正会員である教員が指導する教育機関の所属研究室から申し込まなければならない。

第4条 (審査)

本会に正会員、特別会員、シニア会員、学生会員、および研究室会員として入会を申し込む者（以下、入会申込者）に対しては理事会でその資格を審査する。

第5条 (会員登録)

理事会で入会を承認された者に対しては本人に通知し、会員名簿に登録する。

2. 登録された個人情報については、別に定めるプライバシーポリシーにしたがい、適切に管理するものとする。

第6条 (学生会員、研究室会員の資格変更)

学生会員および研究室会員の会員資格は、次の場合に更新、変更する。

- (1) 学生会員、研究室会員の有効期間は単年度内（4月より翌年3月まで）とし、有効期間終了時点でそれ以降学生を継続する者は、会員資格の更新手続きを行う。会員資格の更新を行わない場合は自動的にその資格を喪失する。
- (2) 学生会員、研究室会員で、有効期間中に学生でなくなった者、あるいは有効期間終了後学生を継続しない者は、正会員への登録変更手続きを行う。

第7条 (特別会員の資格変更)

【第6号議案】

特別会員である団体が分離し、又は他の団体と合併したときは、新資格について申し出をし、理事会の承認を経なければならない。特別会員がその代表者を変更したときは直ちに届出をしなければならない。

第8条（退会）

退会しようとする者は書面で届け出ることにより退会することができる。

第9条（会費滞納時の措置）

会費の滞納を続ける正会員に対しては、別に定める会員会費細則に基づく措置を行う。

第10条（会員特典）

会員の特典は、別に定める会員会費細則によるものとする。

第11条（細則）

本規程に定める外、必要な細目は、理事会の議を経て定めるものとする。

第12条（改廃）

本規程の改廃は社員総会の議を経て行う。

会費規程(案)

2017年5月19日制定

第1条 (目的)

本規程は、一般社団法人日本計算工学会の会費について、定款第8条に基づき定めるものである。

第2条 (入会金)

本会入会に際しては、入会金を要しない。

第3条 (会費)

本会の会費の年額は以下の通りとする。

正会員		8,000 円
特別会員	A 級	200,000 円
	B 級	100,000 円
	C 級	50,000 円
シニア会員		4,000 円
学生会員		2,000 円
研究室会員		2,000 円 + 1,000 円 × 学生数
賛助会員	会費を要しない	
名誉会員	会費を要しない	

第4条 (納入)

会費は、当該会計年度の間、原則として年額の全額を納入しなければならない。

2. 会費は、年額を分割して納入することができない。
3. 既納の会費は、いかなる事由があっても返還しない。

第5条 (細則)

会費の請求については、理事会の決議による会員会費細則において定める。

第6条 (改廃)

本規程の改廃は社員総会の議を経て行う。

会員会費細則(案)

2017年X月X日制定(理事会で決定)

第1条 (目的)

本細則は、定款第7条2項に基づき定められた会員規程および定款第8条に基づき定められた会費規程に関係し、会員の特典、会費の請求、会費滞納時の措置について、具体的な取扱いを定めるものである。

第2条 (会員特典)

会員は次の特典を受けることができる。

- (1) 社員総会の傍聴
- (2) 会員参加費での講演会、講習会等の各種学術集会への参加
- (3) 研究会への参加(学生会員、研究室会員を除く)
- (4) 学会誌の配布(研究室会員を除く)
- (5) 学会誌への投稿
- (6) 本会が関係する出版物の購入の便宜
- (7) ニュースレターの配布(研究室会員を除く)
- (8) IACMへの加入(特別会員、シニア会員、学生会員、研究室会員を除く)
- (9) インターネットリンク(特別会員のみ)
- (10) 本会主催行事における資料の配付(特別会員のみ)
- (11) 定款に定められた権利
- (12) 理事会が定めるその他の特典

第3条 (会費の請求)

当年度の会費に関する請求は、原則として前年度の3月に行う。当年度の4月末日までにこれに対する納付がない場合には、当年度7月に再度請求を行い、それに対して8月末日までに納付がない場合には12月に、さらに1月末日までに納付がない場合には2月に同一の請求を行う。

2. 前年度以前の滞納金がある場合には、当年度の7月、12月および2月の各時点において、その旨を明記した請求を行う。

第4条 (会費滞納者に関する措置)

滞納を続ける正会員に対しては、下記の措置を行うことを原則とする。

2. 1年間の会費滞納者については、文書により会員資格停止の予告を行い、当年度3月までに滞納会費の納付がない場合には、前年度末をもって会員資格停止とする。
3. 2年間の会費滞納者については、文書により会員資格喪失の予告を行う。
4. 3年間の会費滞納者については、3月末をもって理事会の議を経て会員資格を喪失する。
5. 再三の請求書発信に対して連絡不能な状態が1年間継続した会員については、滞納期間の程度によ

らず会員資格を喪失する。

第5条 (改廃)

この細則の改廃は理事会の議を経て行う。